

令和5年度全国学力・学習状況調査 結果分析・活用について

学校名	大磯町立大磯小学校
-----	-----------

1 調査結果の分析で明らかになったこと

	習得の状況が良好であると判断できるもの	指導の改善・充実が求められるもの
国語	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の特徴や使い方に関わる問題や、図や語句などが表記された情報の扱い方に関わる問題の正答率が高い。 複数の文章を読んで、それぞれの文章の趣旨をつかんだり、文章の中心となる語を正しく見付けたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 選択肢から選ぶ問題の正答率が高い反面、記述する問題の正答率が下がる傾向にある。文章や資料(図表も含む)などから読み取ったことを、文章などで自分なりの考えを表現することを意識した授業を充実させることが求められる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 条件が整った(2つの数の関係が表で表記されていたり、計算の答えを求めたり、示された形の名前を問うたりするような)基本的な問題の正答率が高い。 正方形の意味や性質を、紙を折るなどの作業から判別することができる。 伴って変化する2つの数量について、表から変化の特徴を適切に読み取ることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算の意味を問われたり、計算を工夫して活用して解決したりするような問題の正答率が低くなる傾向にある。計算の過程を説明したり、様々な場面で計算を活用したりする学習を充実する必要がある。 割合(百分率)の理解が十分ではない。既習内容であっても、理解が十分ではない内容については、再学習を積極的に行う必要がある。
質問紙	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で学んだことは、将来役に立つと思っている割合が高い。 「読書が好き」「平日も本を読む」児童が多い。 タブレット端末を使う機会が多く(学校でも家庭でも)、その有用さを感じている児童も多い。 友達との関わりに満足している割合が多い。 朝食を摂っている割合が高く、健康な体作りが意識できている。 地域の行事が多く、このような地域の行事に関わる機会も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら目標をもったり、進んで行動したりすることに関わる質問に対して否定的な回答の割合が高い。受動的ではなく、自ら試行錯誤しながら学ぶことができる場を充実させ、主体的に学ぶ意欲を育てる必要がある。 友達と楽しく過ごせる反面、困っている友達を助けたり、逆に自分が困っているときに相談をして頼ったりするような人との関係性を築けず悩む姿が回答から垣間見られる。心に寄り添う温かな関わりを教師を含めて学校全体で、さらにつくる必要がある。

2 学校運営及び授業の充実に向けた取り組み

<ul style="list-style-type: none"> 自ら試行錯誤を繰り返しながらつくりあげる体験や、誰かのために役立ち自己効力感を得られるような体験ができる学びを積み重ねる必要がある。学んだことが生活場面で活用され、学ぶ意義を感じるような授業を意識してつくりなければならない。そのために、学校全体で組織的に授業のあり方を継続的に見直していく。また、児童が、「学校が楽しい」と思えるよう、居場所を確立できるような学習環境づくりをすすめていきたい。 ICT機器の活用については、保護者と協力の上、安全に使用する為の知識や能力の向上を目指すと共に、日々の学習への積極的な活用につなげる。ただし、ICT機器に頼り過ぎるのではなく、実際に「書く」「さわる」という学習活動も大切にしながら、効果的な活用を試行錯誤しながら実践を重ねていきたい。
--

3 家庭(地域)へのお知らせ ※取り組んでいただきたい内容や知っておいてほしい内容等

<p>子どもたちが、学校目標のように、「おだやかに、自ら学び、共に育つ」ように、今後とも学校の教育活動へのご理解、ご協力及び子どもたちの見守りをよろしくお願い申し上げます。</p> <p>ご家庭では、お子様との対話を大切にさせていただきたいです。興味をもっていること、してみたいことなどお子様の素直な気持ちに対して、すぐに結論づけるのではなく、ゆっくりと言葉で対話してみてください。そして、お子様が自分の言葉で、自分の思いを話すことができるよう長い目で見守っていただければと思います。</p>
--